

“スローライフ度”調査の予備調査の予備調査 速報！

それぞれのまちの民度とか幸福度とか、暮らしやすさを測ることがあります。同じ手法で、まちの「スローライフ度」をあらわしてみたい。スローライフ学会スタート時からの課題でした。

市民意識を、どんな指標で測ることができるでしょうか。その予備調査を鳥取からはじめます。今後、スローライフ学会に、筑波大学、神戸夙川（しゅくがわ）学院大学、鳥取環境大学などが協力し合って実施していこうと考えています。

今回の調査の概要

とき：2008年7月29～31日

対象：鳥取市内の下記団体・地域（訪問順）

扇の里村づくり推進委員会 【国府町上地（わぢ）集落】

加瀬木集落活性化推進委員会 【佐治町加瀬木集落】

NPO 法人千年の湯吉岡温泉 【吉岡温泉町】

法師ヶ滝の源流を守る会 【鹿野町河内（こうち）上条集落】

神戸村づくり会議 【神戸（かんど）小学校区】

今回の調査の方法

山下勝典氏（鳥取市企画調整課地域振興室主査）とともに上記の地域を訪ね、各活動団体の方々（5～14名）からお話を伺った。

聴き取り調査およびアンケート調査の組み合わせ。

担当 ...それぞれの問題意識にもとづく調査方法を考案し実施。

* 早川 公（筑波大学 大学院人文社会科学部研究科 院生 文化人類学）

* 河本大地（神戸夙川学院大学 観光文化学部 講師 地理学）

早川ヴァージョン

スローライフ度の測定のためには、まず現時点で当該地域の人々における認知度と認知のされ方を理解する必要がある。

そのために、地域で活動する人びとの現状把握を主としつつ、「スローライフ」認知についての調査も行った。

河本ヴァージョン

大事なのは、スローライフの考え方と地域づくりとをつなげていくこと。

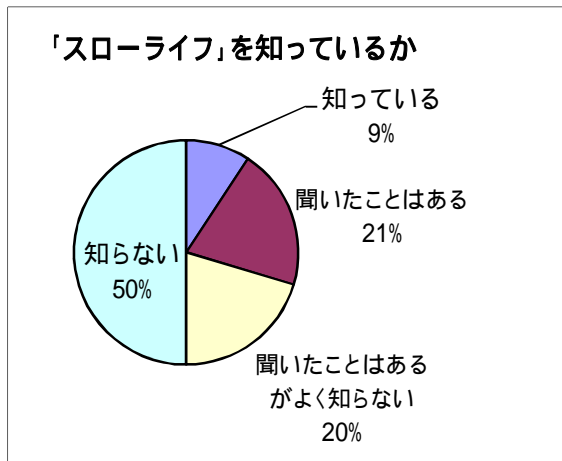
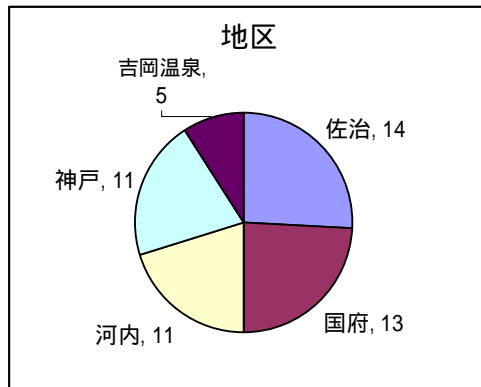
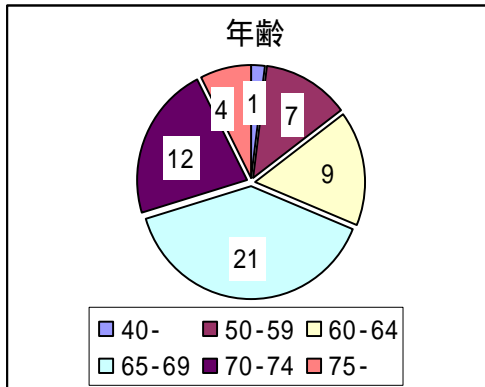
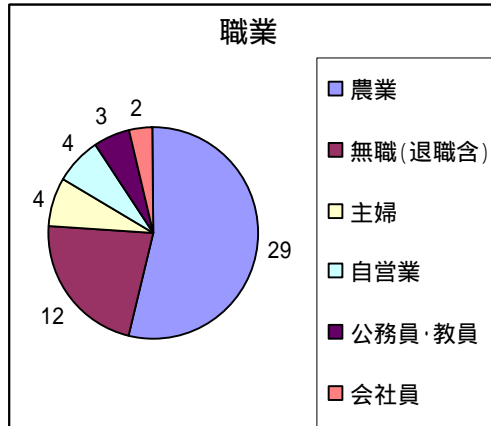
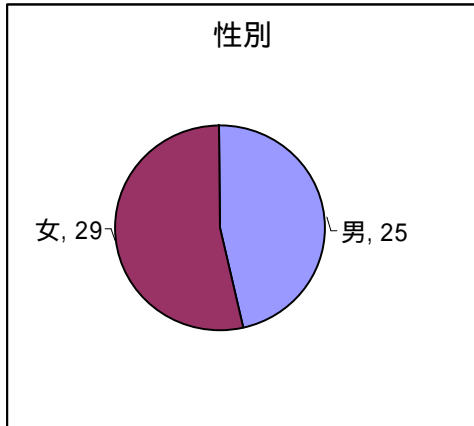
...しかし、「スローライフ」ということばをいきなり提示しても理解してもらいにくい...

「スローライフ」の中身をわかりやすく整理して示す必要があるのでは？

NPO スローライフ・ジャパンの設立趣旨を参考に一部を設問化。+ 地域概要の把握。

- * 「がむしゃらに突き進」んでおられたのはいつ頃ですか？ どんなふうにか？
- * この集落（地区）について最近考えさせられることは何ですか？
- * この集落（地区）の自慢できる点は何ですか？
- * 今、楽しんで取り組んでおられることは何ですか？

調査対象者の概要と「スローライフ」の認知（対象者：鳥取市五地区 54 名）



「スローライフ」からイメージされるもの

- ・ ゆっくり、ゆったりした生活 11
- ・ 自然、季節の中の暮らし 3
- ・ 田舎での生活 2
- ・ 自給自足 2

他：伝統的な生活、自分のペースで生活すること、現代社会を見直す等

あなたの地域にある「スローライフ的」なもの

- ・ 自家菜園・畑仕事 3
- ・ 近所から野菜をもらう 3
- ・ 地元の祭礼、イベント 3
- ・ 鳥の鳴き声、ホタル
- ・ 趣味の活動(公民館活動) 3
- ・ グランドゴルフ
- ・ 雪や谷の緑など、景色のすばらしさ 等々

今回の調査において参与観察と併せて推察すると、対象となった人びとにとって「スローライフ」という概念はそのままでは現時点で馴染みのあるものではない。また「知っている」と答えた人においても「自給自足」や「自然の中での暮らし」などその考えの軸足はいわゆる「田舎暮らし」に置く傾向がある。つまり＜都会＞と＜田舎＞という対立的な認識のもとでスローライフもまた解釈される部分が多いことが強く現れており、人びとの意識（認識）的な側面に目を向けるのであれば、今後の調査ではこうした点について注意が必要であると考えられる。ただ＜地域＞という視点が加えられると潜在力を感じさせる様々な要素が取り出されてくることから、今後は地域という具体的な空間をスローライフ度という尺度を用いて眺めるとどのように（再）評価することができるのか、という点からスローライフ度というものを考えていければと思う。

聞き取り調査でお答えいただいた内容を、少しだけ紹介させていただきます。

「がむしゃらに突き進」んでおられたのはいつ頃ですか？ どんなふうによ？

- ・最も「がむしゃら」だったのは昭和 30 年代。勤めに出つつ、子育てをしつつも、その頃は先祖代々の田をやめることはできなかった。
- ・昭和 30・40 年代、毎日毎日果樹園を開墾していた。
- ・「がむしゃら」なのは今。農地を必死に守っている。
- ・今が一番。経済的な基盤をつくっていくのが大変。スローライフどころではない。
- ・農家って本当にかむしゃら。何も考えず、なりふりかまわず、上から下まで泥だらけ。

この集落（地区）について最近考えさせられることは何ですか？

- ・少子化、嫁不足、高齢化
- ・「百姓離れ」...「勤めんと生活できん」、「若い人は農業の経験がない」、獣害、「あと 5 年したら...」
- ・若い人は子育てや行事などで手一杯で、農産物加工グループにはなかなか入ってくれない。
- ・ものをつくっている満足感はあるが、片一方でものすごくお金が欲しいところがある。
- ・合併のメリットが何も感じられない。...自警消防団への補助制度の廃止など

この集落（地区）の自慢できる点は何ですか？

夏祭り。イベントがなくてもよそから川に大勢遊びに来る。民謡保存会。老人クラブの活動が活発。滝への道を手作りし、ツアーも自分たちでつくってきた。マスコミやよその人が来てくれること。地域づくりのリーダー的な方がおられて引っ張ってもらったので、小さな取り組みの積み重ねができた。公民館活動の活発化。...

今、楽しんで取り組んでおられることは何ですか？

蓮の栽培。野菜作り。米作り。一生懸命働いた後の冷たいビール。夜、冷えた完熟のトマトを畑から取ってきて食べる。草履づくりを教える。夫婦で温泉旅行。グラウンドゴルフ。周辺の農地や林地をきれいにすること。孫や子が帰省時にここを気に入ってくれる。農地を守ること = 「元気なうちはがむしゃらにやってみちゃろうかな」。公民館活動。おじいさんおばあさんの作った野菜を無駄なく使い切ること。農産物の加工品をつくって、わずかだが収入を得ること。...

今後の“スローライフ度”調査の実施にあたって検討すべき課題、留意すべきポイントは？

調査の際にスローライフの定義をどう伝えるか。

...「都会の人の思い上がり」、「都会の裕福でゆとりのある人が勝手に田舎をユートピアと思っているだけ」、「聞いたことがない」、「難しすぎる」などの声に対し、調査時にどう答えるか。

量的把握をどのように行うか。たとえば...

・スローライフの具体的な中身を示す項目をつくり、該当する項目に を入れてもらう。そして、 の入った項目の数を数える。

・対になることを両端に記し、5段階くらいで各人の嗜好を尋ねる。

「スローライフ度」を単一の数値で表現するのが適切かどうか。

重点を個人に置くか地域に置くか。本来はどちらも必要であるが、どちらからとりかかるか。

...地域がもつスローライフの潜在力と、個人と社会とのかかわり方としてのスローライフの、両面からの分析が必要。

おそらく地域によってスローライフのあり方が違う。そこで、たとえば

・鳥取市もしくは因幡全域の住民にアンケートを送付し、どんな地域でどのようなスローライフがあり得るかを検討する。スローライフを構成する要素ごとに各集落（地区）の回答平均（性別、年齢別などがあってもよい）をそれぞれに地図化して『鳥取・因幡スローライフ・アトラス』を作成してはどうだろうか？

・もしくは、地域を生活形態によって類型化し、各類型から事例集落（地区）を選ぶ。そして事例集落（地区）で住民全数調査を実施し、スローライフの地域差 etc. を解明・整理する。